

# 13

## 第13章 セカンドライフプランニング

### - 現役時代から考えるリタイアメントプログラムを学ぶ

本講での学習のゴール（講義後に学生は以下の事項ができるようになっている）

- セカンドライフに必要な金額の把握方法が理解できる。
- 係数表を活用して計算ができる。
- セカンドライフに関する役立つ情報について評価をし始める

#### 学習の狙い

セカンドライフというのかなり先のことだと感じるが、その先のことを見通して計画し、資金準備をしていくことが必要だ。ここでは、理想の生活を送る時に必要となる資金準備について考える。

#### この章の概要

どういう老後が送りたいかは個人による。老後の過ごし方についてカードを引いてグループごとに設定された理想の老後についてどうやって資金調達するか、計画を立ててもらおう。

【ア 受け取り年金等】 + 【イ 準備資金】 < 【ウ 理想に必要な予算】

#### [Case 13-1]

Aさんは40歳、同じ年の妻と子供2人（小学校5年生、中学1年生）という家族構成である。40歳を迎えて、老後のことが気になりだした。このまま都会暮らしを続けるか、あるいは田舎暮らしを選択するか、いや海外移住もあるかと思いを巡らせている。

あなたは引退後に、どこで、だれと、どのような生活を送りたいかを想像し、グループで紹介しあおう。

どこで？（場所                    ）だれと？（                    ）    どのように？  
（                                    ）

#### [Case 13-2]

次のライフイベントに、必要な平均金額はいくらだろうか？

ア 夫婦で豪華客船にのって世界一周（108日間）   イ 介護で準備しておきたい初期費用  
ウ 子どもの結婚・新生活準備への援助額           エ 戸建住宅の平均リフォーム金額

① 192万円

② 262万円

③ 670万円

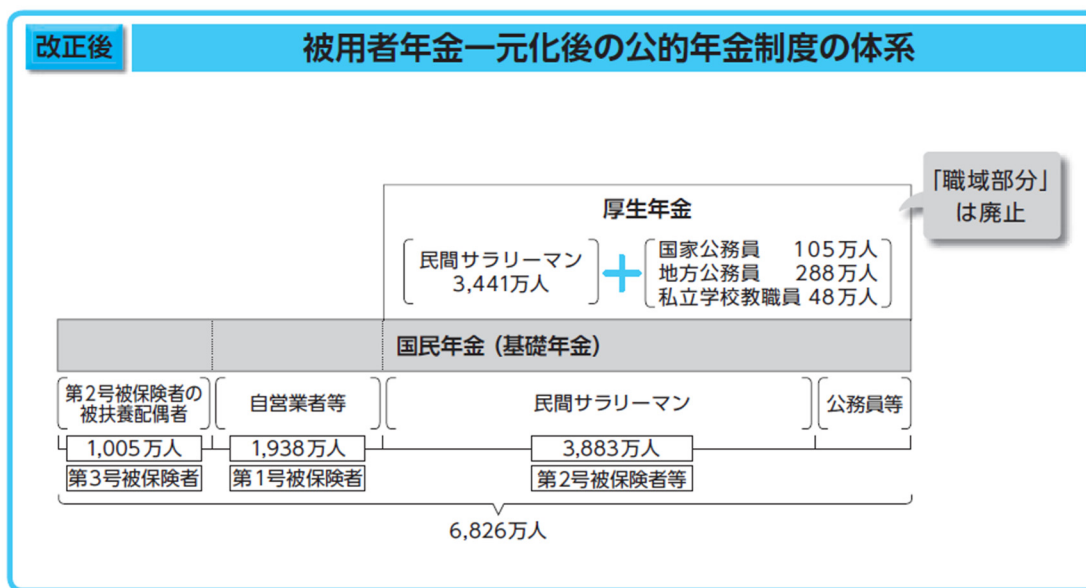
④ 780万円

キー概念

- 公的年金制度
- 平均余命
- 年金終価係数
- 減債基金係数

キー概念解説

**公的年金制度**： 加入者が毎月保険料を払い、老後に年金としてお金を受け取る（老齢年金）ことができる制度。他に障害年金、遺族年金がある。我が国は国民皆年金、社会保険方式、世代間扶養が特徴である。年金制度は国民年金を基礎として 3 階建てになっており、現役世代にどの年金制度に入っていたかによって、受給できる年金の種類が異なっている。受給できる年金額は、日本年金機構が毎年 1 回、誕生日月に発行する「ねんきん定期便」で確認することができる他、同 Web サイトで支給額のシミュレーションができる。



地方公務員共済年金制度研究会編集 資料より抜粋

**平均余命**： ある年齢の人があと何年生きられるかを示したもの。厚生労働省簡易生命表による（表は平成 23 年のもの）。

	男性	女性
0 歳	80.21 年	86.61 年
20 歳	60.61 年	66.94 年
40 歳	41.29 年	47.32 年
65 歳	19.08 年	23.97 年

**年金終価係数：** ある一定の利回りで、一定期間、一定額を積み立てた場合、元利金合計で、最終的にどれだけの金額になるかを求めるための係数。

**減債基金係数：** 一定の利率で複利運用しながら、将来の目標金額を得るために、毎年どれくらい積み立てる必要があるのかを求める係数。

**[Work 13-1]**

★グループごとに「セカンドライフの暮らし方カード」を引き、セカンドライフ（65歳以上）に必要な費用を計算しよう。

- 1) 田舎で農作業、自給自足暮らし
- 2) 都会でゆとりある暮らし
- 3) 中都市で標準的な暮らし
- 4) 海外移住（マレーシア）

参考データ：夫婦ふたりの生活費

	毎月の生活費
①田舎で農作業、自給自足暮らし	→15万円/月
②都会でゆとりある暮らし	→36.6万円/月
③中都市で最低限の暮らし	→22.3万円/月
④海外移住（マレーシア）	→15万円/月

**セカンドライフ（65歳以上）に必要な費用**

**STEP 1**：年間の生活資金を求める

毎月の生活費（                      ）万円×12ヶ月＋余裕資金（                      ）万円×3ヵ月分  
＝年間の生活資金（①                      ）万円

**STEP 2**：夫婦二人で生きる時期の生活資金

（①                      ）万円 ×（②                      ）年 =（③                      ）万円

**STEP 3**：妻1人で生きる時期の生活資金（70%）

（①                      ）万円 ×70% ×（平均余命の差                      年＋夫婦の年齢差                      歳）  
＝（④                      ）万円

**STEP4**: オプション

(介護費用) + (子ども2人の結婚費用) + (その他 ) 万円  
= (⑤ ) 万円

【ウ セカンドライフに必要な費用】(③ ) 万円 + (④ ) 万円 + (⑤ ) 万円  
= **合計 ( ) 万円**

[Work 13-2]

【ア 受け取り年金額等】の設定

「働き方カード」を引き、受け取り年金額の設定を行う。

	選択番号	年間の年金額	総額	退職金
男性		万円		
女性		万円		

【ア 受け取り年金額 等】

**合計 ( ) 万円**

[Work 13-3]

受け取り年金等 + 準備資金 < 理想に必要な予算

準備資金額を求め、減債基金係数から月々の積立額をもとめよう。

またその積立を可能にする金融商品について、グループで調べて提案しよう。

条件設定：現在、夫婦ともに 40 歳で現在の貯蓄額は 100 万円。現在の貯蓄額は月に 5 万円程度。定年は 65 歳で現役世代と同程度の収入。持ち家あり（住宅ローンは 60 歳完済）。今後、子ども 2 人（小学生 5 年と中学生 1 年）の大学進学までの教育費がかかる見込み。

★【必要となる準備資金】は？（ ）

★世帯年収（ ）万円 ※Work13-2 より

★年間の積立金額 利率（ ）%  
期間（ ）年  
年間の積立額（ ）万円  
⇒月々の積立金額（ ）万円

(参考) 減債基金係数 (Web 上で計算可能 <http://www.iseeit.jp/ec-sub-060718-5.php>)

利率	20 年	25 年
0.1	0.04953	0.03952
0.5	0.04767	0.03765
1.0	0.04542	0.03541
1.5	0.04325	0.03326
2.0	0.04116	0.03122
2.5	0.03915	0.02928
3.0	0.03722	0.02743

★積立を可能にする金融商品の提案

(メリットとデメリットについて中立的に分析して提案すること)



Student ID:

名前:

提出期限 月 日

**[Homework 13]**

あなた個人はどのようなセカンドライフを送りたいかを考えてシミュレーションし、その結果をレポートにまとめよう。